

---

# 孤涅宮博士の実験室

もつぶいー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

孤浬宮博士の実験室

### 【NZコード】

N2140M

### 【作者名】

もつふいー

### 【あらすじ】

孤浬宮博士の息子ネロとネル。

兄のネロは死んだ父親に生き写しの顔をした弟ネルに違和感を覚え、その秘密を知るために「開かずのボックス」と呼ばれる父親の実験室に一人で忍び込もうとするが・・・。

## 始点

大きくなつたら

1ねん1くみ こねみやねる

ぼくわおとなになつたらパパみたいなかがくしゃになりたいです。  
パパはいつもじっけんしつといつてるとこにいます。

ぼくははいつたことがないところです。

ままもいつたことがないつていつてします。

どんなとこなんどううつておもいます。

だから大きくなつたらパパといつしょにじっけんしつにいきたいです。

パパにじっけんしつにいきたいつていいました。

そしたらパパはねろがかがくしゃになつて大きくなつたらいいよつていいました。

こんどみんなでいきたいです。

ぼくわがぼくはに直され、ピンクっぽいペンでとても大きい花丸で  
がつけられている。  
全体的にくしゃくしゃになつた僕の作文は、ずっと机の間に挟まつ  
ていた。

「ねーお兄ちゃん。なんてかいてあるの?」

と、僕の制服の裾を引っ張る、現在小1の弟ネル。せつかく気分転  
換に部屋の掃除をしていたのに、  
邪魔してきた。しかも、めざとく僕の作文を見つけてしまい、しき  
りに読みたがる。

「・・・・・・

「読ませて

「だめ

「いいでしょーー

「だーめ

「お兄ちゃんのばーか

最近のガキは小一からませていい。純粹な時期はとっくに終わってしまったらしい。

「いひつ

最近習い始めた空手の技までかけてきた。体制を崩すと僕の手からもぎ取るよにして作文を奪う。

「こん

「いひつた

頭を机にぶつけ、ひっくりかえる、そして。空中で、無言の父さんが僕を見つめる。

ただ、写真だけ。

最後の一枚。

ここにあつてはならないもの。

父さんの写真は、空中で目をそらしながら胸の上に落ちた。

「お兄ちゃんつて、パパのことじつてるの?」

「つうん、知らないんだ」

そう言つて、後ろ手にくしゃっと父さんを握りつぶす。いぶかしげな顔つきのネルは、また作文を読んだ。

「でもや、ここにパパつて」

「あ、だからね。これは僕の想像だよ。ネルだつてするだろ? こんな父さんがいたらいなつて」

「ふうん。そつか、そうだよね」

無邪気に笑い、おれだつたらねえ、と話しかけてくるネルは大丈夫。いつもの弟。

ネルには父さんことを知られては困る。

父さんはもうこの世には存在していないし、皮肉なことに僕がこの

作文を書いていたときにはもう死んでいたらしい。

朝、学校に行って、帰ってきたら母さんが泣いていた。母さんは泣きながら、かたる、かたると繰り返すだけ。

孤涙宮かたる

それが父さんの名前だつて知つてた。なにがあつたの?ともママ大丈夫?とも言わなかつた。

分かつた。いや分かつてしまつたとでもいつたほうが良かつたのか。それから、父さんの命とすれ違うようにして生まれたネル。父さんの死から1年後の六月に生まれた。

母さんは喜んでいるようだつたけど、本当は喜んではいなかつたと思つ。小学2年生になつた僕にそんな姿を見せたくなかつただけだ。

「ねえ、お兄ちゃんきいてるの?..」

「あ、うん」

「きいてなかつたでしょ」

「いじめん」

「じゃあ、もう一回こいつよ」

そういうとネルはすうっと深呼吸していつた。

「おれはねパパに会つてみるのがゆめ」

「いいんじやない

「でしょ」

ピンポーン

「「あつ」」

「たぶんおれのもだいちだから。行つてくる  
「気をつけて」

「じゃあね」

僕の言葉をさえぎつて玄関に向かう弟の背中が、やけに大きく見え

た。

扉が閉まる音を聞いて、そつと尻ポケットに入れた父さんの写真を見る。

口は笑つてゐるが、目が笑つてない。

この写真が無くなつても、僕は容易に父さんを思い出せるだらう。だからこれは処分しなくてはいけない。

ネルに見つからないように、きづかれなによつに。

かたるとネルが瓜二つの顔をしてゐると、きづかれてはいけない。

## 罪

父さんはとネルが似ていて、気付いたのは、つい最近だ。母さんはそれより前に気が付いていたようだ。僕が成長する」と、父さんの写真は点々と無くなっていた。

いつだつただろうか、ひょっこりとでてきたアルバムに父さんと母さんがいた。

ほとんど「それでいるのは母さんで、父さんは一枚しか写っていない」。

いつものようにお気に入りの白衣のポケットに、だらしなく両手を突っ込んでいる。

物憂げな表情が父さんらしい。

「ネロ。ちょっとそれママにかけて」

一緒に部屋にいた母さんは、いつの間にか隣にいる。

顔が真っ青だった。

微笑もうとしているのかもしれないが、ほほがひきつっている。

何も言えないまま手から写真を引き抜かれた。

そしてなにも言わないまま母さんは写真を

ひきちぎった

目の前で

肩と化すまで

「今度からネロも」「うるさいのよ」

原型が無くなつたものを「ミニ箱に捨て、母さんは笑つた。泣いているような笑いだった。

だからこの最後の一枚も同じ運命をたどらなければならぬはずだ

つた。

でもどうしたことだらけ、捨てられない。  
くじゅくじゅになつた父さんのしわをゆつべつ伸ばして、かぎなき  
の弓を出でて中でしまつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2140m/>

---

孤涅宮博士の実験室

2010年10月9日21時44分発行